

うつしから読み取る技術的アーカイブ

2020 年度活動報告

昨年度までは、「うつし」に関する技術や関連資料のアーカイブを行うことで、本学の貴重な記憶として継承していくことを目的に研究を行ってきました。今年度はコロナ禍の影響でこれからの研究活動のあり方を再考するいい機会になりました。実は、これまで彬子女王殿下をプロジェクトリーダーに「うつし」をテーマに研究活動を実施してきましたが、彬子女王殿下が本学で行なっている特別授業との乖離が出て来ており、昨年度から彬子女王殿下をプロジェクトリーダーとした研究の内容変更を考えていました。コロナ禍で今年度、彬子女王殿下の特別授業を実施する事は出来ませんでした。実施予定だった内容は、これまで美術学部の学生を対象に行なってきた授業を、今年度は音楽学部の学生を対象に行うものでした。一昨年実施した「日本文化を考える～令和からまなぶ～」は美術学部の学生を対象に、彬子女王殿下の「日本文化における歌」の基調講演をふまえ、「自分が好きな歌」を美術作品にして発表する形式でした。今年度はそれを音楽学部作曲専攻の学生を対象に行ない、音楽作品にして発表する形式を予定していました。この特別授業は来年度、仕切り直して実施予定です。また彬子女王殿下のプロジェクトもテーマを「うつし」から「日本文化～記憶から伝承へ～」(仮)とし、彬子女王殿下の活動や特別授業との融合をはかり、記憶を具現化した創造的な伝承をアーカイブし、次代への継承の形を模索していきます。

森野彰人 (美術学部教授)